

## 2015年6月 ITU-R WP1A 会合報告書

- 【会合名称】 ITU-R WP1A 会合  
 (スペクトラム技術に関する作業部会)
- 【会 期】 2015年6月3日(水)～6月10日(水)
- 【開催場所】 スイス ジュネーブ ITU 本部
- 【概 要】

本会合は、今研究期間における第4回会合である。34ヶ国の主管庁と4のROA (Recognized Operating Agencies)、6のSIO (Scientific or Industrial Organizations)、3の地域または国際機関事務局等より計141名が参加した。日本からは塚田氏、芦澤氏(総務省)、石田氏(クアルコムジャパン)、植田氏、張氏(NICT)、大木氏、庄木氏(東芝)、小川氏(ARIB)、亀谷氏(国立天文台)、久保田氏(テレコムエンジニアリングセンター)、小林氏(ドコモCS)、齊藤氏(横須賀リサーチパーク)、佐々木氏(デンソー)、篠原氏(京都大学)、上土井氏、橋本氏、濱崎氏(JAXA)、花澤氏(UL Japan)、森氏(ワシントンコア)の合計19名が参加した。

日本、米国、韓国、中国、イスラエルなどからの寄与文書及び前回の議長報告と他グループからのリエゾン文書を含め合計67件の入力文書が審議され、23件の出力文書が作成された。

会議では、3つのWorking Group (WG)等が設置され、各議題について審議が行なわれた。会議の構成は表-1のとおりである。

また、表-2に入力文書一覧を、表-3に出力文書一覧を示す。

表-1 WP1Aの会議構成と各グループの担当議題

|   |
|---|
| Working Party 1A 議長：Mr. R. Garcia De Souza (ブラジル)   |
| Working Group 1A-1 議長：Mr. J. Shaw (英国 BBC)<br>担当：電力線搬送通信(PLT)システムを含む<br>無線通信システムと有線電気通信の共存とその関連事項 |
| Working Group 1A-2 議長：Mr. A. Orange (米国)<br>担当：ワイヤレス給電システム(WPT)とその関連事項                            |
| Working Group 1A-3 議長：Ms. B. Sykes (米国)<br>担当：その他の事項  |

# 1 Working Group 1A-1 : 電力線搬送通信 (PLT)システムを含む無線通信システムと有線電気通信の共存とその関連事項 (議長:Mr. R. Liebler (英国 BBC))

## 1.1 電力線搬送通信 (PLT)システムを含む無線周波数に依存する電気通信システムの適切な評価

---

入力文書 : 173 (WP 3L), 187 (WP 5B), 199 (T-SG 15), 200 (SG 6), 229 (T-SG 15)

出力文書 : 103, 104

### (1) 主要結果

WP5B、T-SG15,SG6 等から入力文書があり、それぞれの有益な情報に対して、リエゾン文書が作られた。ただし、PLT デバイスについての情報を WP3L に要求していたが、特段情報がないとの回答があった事について、今後より活発な検討ができるよう WP3L に要望する事になった。

### (2) 審議概要

#### 1) PLT デバイスについての情報提供

---

入力文書 : 173 (WP 3L), 187 (WP 5B), 199 (T-SG 15), 200 (SG 6)

出力文書 : 103

WP1A RG 議長よりの WP3L へ宛のリエゾン文書で、PLT デバイスについての情報提供を希望していた。それに対して、WP3L からは、特段入力文書が無かった旨のリエゾン文書が送られた。この状況に対して、イスラエルから問題視する意見がだされ、議長から ITU-R 事務局に対して、次回 WP3L 会合に向けて、より活発化するように連絡を依頼する意見があり、事務局も同意した。入力文書 187 については、有用な情報に感謝する旨リエゾン文書として返すことにした。入力文書 200 (SG6) については、これまで検討してきた。以前のレポートにメンションされてきた。文書に「-」で示されている3項目をピックアップして出力文書に入れる。

出力文書に関して、metric conductors に使われる周波数を記載すべき (イスラエル) という意見があり、” The frequency range covered by the above-mentioned recommendations are from 2MHz to 2GHz.” の文が追加された。この修正と COPY 先に WP 5D を追加する修正の後、承認された。

#### 2) QUESTION ITU-R 221/1

---

入力文書 : 229 (T-SG 15)

出力文書 : 104

入力文書について感謝の意を伝える必要がある事になった。VHF 帯でのケーブル TV 分配に対する WP5B の懸念をリンクさせる可能性あり。同軸システムを使う事について ITU-T G.9960 を確認する必要がある。

## 1.2 Smart Grid Power Management Systems

---

入力文書 : Annexes 13, 14 & 15 to Doc. 1A/166, 188 (T SG 15), 190 (BR 局長), 191 (ATIS), 201 (INS), 210 (CHN)

出力文書 : 100

### (1) 主要結果

インドネシアと中国から、smart grid に関心を持って研究を行いつつある状況について説明があった。それらの内容を盛り込み、出力文書とした。

## (2) 審議概要

### 1) smart grid についての調査状況

入力文書：Annexes 13, 14 & 15 to Doc. 1A/166, 188 (T SG 15), 190 (BR 局長), 191 (ATIS), 201 (INS), 210 (CHN)

出力文書：100

インドネシアと中国から、smart grid に関する研究状況について説明があった。インドネシア国政府は smart grid を電気通信の効率的な対応手段の可能性があると考え、インドネシアの東部でのパイロットプロジェクトを立ち上げている。中国は smart grid の無線技術研究に関連する対応を行っていることと、IRU-R SM[SMAER\_GRID]の新ドラフトに中国の状況をアペンディクスに載せる事を提案している。議長から中国は smart grid を本格的に行うつもりなのか質問があり、まだ調査段階であると回答があった。

出力文書については、インドネシアの寄与文書の Reference 部分については議論時に当事者がいなかったため、削除した。

## 1.3 環境によるRFノイズの過剰レベル

入力文書：Annex 18 to Doc. 1A/166

出力文書：特になし

### (1) 主要結果

参加者から特にコメントなし。

## 1.4 G.9700パワースペクトル密度 (PSD) 限界マスク上の検討

入力文書：Annex 19 to Doc. 1A/166, 169 (WP 4C), 178 (WP 7D), 199 (T-SG 15)

出力文書：102

### (1) 主要結果

SG15 からの入力文書を中心に、検討した。より情報が必要である事がコメントされた。

### (2) 審議概要

#### 1) T-SG15 からのリエゾン文書および関連文書の検討

入力文書：Annex 19 to Doc. 1A/166, 169 (WP 4C), 178 (WP 7D), 1A/199 (T-SG 15)

出力文書：102

入力文書 199 について、イスラエルより、CATV など、広くシステム間で混信があるのが問題でないかと、コメントがあった。

入力文書 169 (WP 4C)と 178 (WP 7D) については、SG15 におけるより良い検討を期待するとして WP1A のリエゾン文書をフォローする。WP 4C へのリエゾン文書と共に、関連する事項について一般的な事項のコメントを作成する事を検討した。より情報が必要である旨、議長からコメントあり。

出力文書 102 について COPY 先に WP 5D を追加する修正の後、承認された。

## 1.5 G.fastでの使用を目的としたケーブルの仕様及び性能

入力文書：Annex 20 to Doc. 1A/166, 187 (WP 5B)

出力文書：特になし

## (1) 主要結果

Broadband Forum からのレスポンスと Working parties からの懸念は、ケーブルの性能とエネルギー消失についての計測研究を再加速させることは大変有用であると議長コメント。

## 1.6 J.HiNoCシステムからの無線周波数エネルギーの漏れ

---

入力文書：Annex 21 to Doc. 1A/166, 174 (WP 3L), 175 (T SG 9), 187 (WP 5B)

出力文書：特になし

### (1) 主要結果

入力文書 174 (WP 3L) と 175 (T SG 9) について確認した。ケーブルシステムからの放射についての知識の欠如についての懸念を強め、更に考慮が必要かもしれないとコメントが出、また詳細な状況解析が行われた事を確認した。

### (2) 審議概要

#### 1) J.HiNoC システムからの無線周波数エネルギーの漏れ

---

入力文書：Annex 21 to Doc. 1A/166, 174 (WP 3L), 175 (T SG 9), 187 (WP 5B)

出力文書：特になし

入力文書 174 (WP 3L) について、SG-3 から 5B へ送られたのと同様にケーブルシステムからの放射についての知識の欠如についての懸念を強め、更に考慮が必要かもしれないと議長コメントあり。

入力文書 175 (T SG 9) について、リエゾン文書はより詳細の状況解析が行われたことに感謝している。WP1A は WP5B に計算結果の評価をする観点を残すと議長コメントあり。

## 1.7 ITU-T Kシリーズ勧告におけるITU-Rの関心事項

---

入力文書：Annex 22 to Doc. 1A/166, 168 (WP 4C), 170 (T-WP 2/5), 176 (T-SG 9), 193 (T-SG 5), 171 (T-WP 2/5), 177 (T-SG 9), 194 (T-SG 5)

出力文書：101

### (1) 主要結果

入力文書について確認した。得られた情報については、ITU-T にも知らせる事とする。ケーブルシステムからの放射についての知識の欠如についての懸念を強め、更に考慮が必要かもしれないと議長コメントがあった。

出力文書 101 について、“co-existence” についての議論があった。ITU で明確に扱っている radio communication services 間の共用化は “co-existence” だが、明確にはまだ位置づけられてないものの共用化は他の表現をすべきという事が確認された。そのため、本リエゾン文書に “co-existence” を用いることは不適當であり、“In the interest of avoiding disturbance from various wired telecommunication systems” のように修正することになった。

### (2) 審議概要

#### 1) 勧告 ITU-T K.60 および勧告 ITU-T K.106 (former K.mhn)

---

入力文書：168 (WP 4C), 170 (T-WP 2/5), 176 (T-SG 9), 193 (T-SG 5), 171 (T-WP 2/5), 177 (T-SG 9), 194 (T-SG 5)

出力文書：101

入力文書 168 (WP 4C) に掲載されている情報を ITU-T に知らせると議長コメントがあった。

入力文書 170、176 については、特に議論なし。193 (T-SG 5)については、もし電信システムが PLT 機器によって干渉が起こるようであれば興味深い状況であり、確認は継続する状況にあると議長よりコメントがあった。入力文書 177 (T-SG 9) 内容については、ここに書かれていることは良い協調の例となる事を議長よりコメントがあった。194 (T-SG 5)については、結果を評価し、今後も協力関係を継続する事が良いと議長よりコメントがあった。

出力文書 101 について、“co-existence” についての議論があった。ITU で明確に扱っている radio communication services 間の共用化は “co-existence” だが、明確にまだ前述の service としたの位置づけでないものが検討する共用化は “impact~” のような表現をすべきということであった。そのため、本リエゾン文書に “co-existence” を用いることは不相当であり、“In the interest of avoiding disturbance from various wired telecommunication systems~” のように修正することになった。

## 2 Working Group 1A-2 : ワイヤレス給電システム (WPT) とその関連事項 (議長 : Mr. A. Orange (Qualcomm))

### 2.1 暫定新勧告案(PDNR (= Preliminary Draft New Recommendation )) ITU-R SM.[WPT]の策定

入力文書 : 198 (APT), 203 (Rev.1) (USA) , 207 (BWF(J)/CJK WPT WG), 209 (CHN), 213 (ISR),  
216 (KOR), 218 (J), 220 (J), 226 (CG Chair), 227 (ETSI(TC ERM))

出力文書 : 1A/TEMP/107

#### (1) 主要結果

- ・ WPTは1Aで議論すべき案件(周波数範囲等のSpectrum Engineering techniquesに関するもの)を進めるために当面WP1Aで議論し、関連文書は1Bに情報として送付されることになった。
- ・ 勧告案は周波数範囲に関する内容に限定して作業文書から PDNR に格上げとなり、来年の SG1 での PDNR 採択と(PSAA での)勧告承認を目指すことになった。
- ・ タイトルは “Frequency ranges for global or regional operation and Human Hazards of non-beam Wireless Power Transmission (WPT) systems ” となった。日本他の提案にあった “harmonization” が削除され、“Human Hazards”が追加された。“non-beam”に限定し、“beam”は将来必要時に再考する。
- ・ 日本、韓国、イスラエル、米国は PDNR 策定を支持した。一方、イギリス、オランダ、EBU(=European Broadcasting Union)、BBC は、6.78MHz 帯以外の提案周波数からの既存システムへの影響への懸念を強く繰り返し指摘し、PDNR 策定に反対した。その結果、PDNR の勧告部分の周波数表には 6765-6795kHz のみが記載され、19-21/59-61kHz、79-90kHz、100-300kHz、6765-6795kHz 等のいくつかの周波数範囲が産業界のアライアンス、コンソーシアム及び学界で検討されていることが considering e)節に記載され、さらに 79-90kHz 及び 6765-6795kHz については一主管庁が無線通信業務へのインパクトの検討を終え、別の主管庁が 110-300kHz のインパクトの検討を実施し、いくつかの主管庁がこれらうちのいくつかの周波数帯を WPT 技術への利用を既に承認していることが considering f)節に記載された。
- ・ considering f)節の記述は、79-90kHz 及び 6765-6795kHz については日本の入力、110-300kHz についてはイスラエルからの入力、既に承認しているとの記述は韓国及び米国の説明によるものである。
- ・ considering g)節等には、WPT から保護される対象として、“radiocommunication services including the standard frequency and time signal services and the radio astronomy service” と記載され、WPT の影響(impact)を十分検討することが必要であることが合意された。

- ・ 勧告部分には、イスラエル提案を元に ICNIRP ガイドラインを適用すべきことが追加された。
- ・ 上述の各項目が合意され、PDNR への格上げを決めた後、韓国が今会合で SG1 での PDNR 採択を行って勧告化することを提案し、日本もサポートしたが、慎重に議論を進める意見が多く、2016 年での SG1 採択を目指すことになった。

## (2) 審議概要

- ・ 勧告案策定作業は議長がエディタを務めた。日本、韓国、イスラエル、米国からの提案を併記したドラフトが作成され、各項目の議論ののち全体を見直し、再び議論するプロセスがとられた。1A-2 審議時間の大部分を費やして議論が行われた。
- ・ 昨年会合から carry-forward されていた作業文書の”Scope “には[guideline for administrations on][suitable][harmonized] の検討中文言があったが、英国から scope の”harmonized”という表現を懸念する意見があり”harmonized”という言葉は削除された。また、他も削除され、operation on a global or regional basis であり、mobile/portable devices, and electric vehicles, etc のための non-beam WPT 周波数範囲、および、人体防護ガイドラインを記すことで合意した。
- ・ 英国、BBC は周波数に懸念を示し、そもそも勧告がいるのかと疑義を示したが、議長はそれは Drafting Group では議論しないものとしてドラフティングを進めた。
- ・ 勧告の表に書き込まれる周波数については、日本、韓国、イスラエル、米国 の 4 か国全てがモバイル機器用 6765-6795kHz と EV 用 79-90kHz について提案してきたものの、イスラエルから ISM 帯ではない帯域での kW クラスでの運用の影響が十分検討されていない 79-90kHz を[ ]なしで記載することに反対が示された。
- ・ 日本からは、6.78MHz 帯及び 79-90kHz は国内で共用検討が済んでいる旨、韓国からは共用検討の出発点として韓国政府が既に制度化している 19-21/59-61kHz についても残しておくよう提案があった。英国とオランダから、コンセンサスの得られていない 6.78MHz 帯以外は全て recommends 節の周波数表から除去するよう提案があり、オフラインでの議論の結果、この部分は表から除去し、アプリケーションとともに considering 節に記載するよう修正された。
- ・ IEC TC69/JPT 61980 議長の Stolz 氏のプレゼンによると、IEC のスケジュールでは来年の 3 月か 4 月に EV 向け技術規格(TS)の正式文書化を予定との情報提供があった。Stolz 氏は WP1A での周波数検討状況を氏の会合に反映させることを示唆した。
- ・ ETSI から、勧告策定の他、レポートの改定のためにも、日本での共存検討の入力を求める意見があり、日本から、日本語の報告書は Web で公表されており、全体は膨大なために翻訳困難だが、概要は既に入力している旨、回答した。
- ・ ロシア (SG1 議長) から、ITU は適した周波数の範囲を示して、各国はそれぞれの事情を考慮し、出力等は各国で適切に決めてもらうということで良いのではないかと、それであれば今の文書で十分ではないかとの提案があった。
- ・ イスラエルは PDNR の周波数の表に出力制限値を入れることを提案したが、日本が反対し、議論の結果、Rec. ITU-R SM.1056 (ISM 機器の放射制限)と CISPR11 を参照するのみにとどめることになった。
- ・ イスラエルは、勧告に ICNIRP ガイドラインにおける具体的な指針値を入れることを提案し、日本は勧告として別にすべきではないか、指針値を掲載するだけでは不十分で誤解を招くとその意義に疑問を呈し、結果として recommends 節に「ICNIRP ガイドラインを適用すべきこと」のみを記述することが合意された。
- ・ ドイツの提案により、本勧告案の対象とする被干渉システムとしては、無線通信と電波天文の他に、標準電波時刻サービス (the standard frequency and time signal service) が加えられた。さらに英国の提案で、“no status in the radio regulations” との理由が付加され、recognizing 節に書き入れられた。
- ・ イスラエルから、WPT 機器を SRD とみなすことについて提案があったが、日本、オランダから SRD の定義について懸念が表明され、「通信部分は分離して規定する」との表現に留められた。
- ・ 日本から、本勧告の対象は現状では non beam-WPT に限定されているとの指摘があり、そのと

おりタイトルに明記された。

Beam-WPTに関する記述を追加する際には、タイトル等について再考することとなった。

- ・英国、米国等は継続検討の周波数が入ったままでの PDNR 化に難色を示したが、日本は ITU が産業界から無視されてしまう懸念を重ねて表明した。イスラエル、ロシア等も日本の考えをサポートし、オフラインでの議論も行った結果、今会合で PDNR が作成された。
- ・韓国は、十分に周波数審議を尽くしたとして今会合の WG での PDNR 承認、SG での採択を提案し日本もこれを支持したが、イスラエル、米国、ドイツが反対し、提案は退けられた。今会合で WD から PDNR へ格上げし、2016 年での SG1 採択を目指すことが確認された。
- ・WP1A plenary において、BBC から、関係主管庁による多大な作業と入力が必要であり改定が必要との意見とともに、勧告部分が“administrations should consider” となっていると指摘し、作業文書のままで carry forward を推奨する提案があったが、イスラエルが前者には同意するが後者および提案に反対した。議長は BBC 提案を退け、文章はオフラインで協議することとし、作業文書を PDNR へ格上げして chairman’s report に添付することとした。

## 2.2 Report ITU-R SM.2303-0の改定

---

入力文書：181 (ISR), 198 (APT), 204 (Rev.1) (ISR), 205 (ISR), 206 (ISR), 207 (BWF(J)/CJK WPT WG), 209 (CHN), 215 (KOR), 218 (J), 219 (J), 226 (CG Chair), 227 (ETSI(TC ERM))

出力文書：1A/TEMP/106

### (1) 主要結果

- ・日本とイスラエルがエディタを取り、WP1A-2 での日本の提案をベースに韓国、イスラエルからの提案をマージし、中国、APT、CJK の寄書内容を追加し、改定案ができあがった。この改定案は WP1A plenary で承認後、SG1 に送られた。
- ・日本からの提案（1 月答申および 5 月の電波利用環境委員会・ワイヤレス電力作業班までの合意事項）はそのまま受け入れられた。韓国入力には人体防護の検討状況が、中国の情報には最新の regulation 検討状況とともに Home appliance 向け 47-53kHz と EV 向け 37-43kHz 及び 82-87kHz の周波数範囲が記述されている。
- ・イスラエルから ICNIRP の 1998 と 2010 ガイドラインを解説する内容が新たに 8 章として提案された。しかし、日本から内容が正確でないと反論があり、調整の結果、新 8 章には ICNIRP ガイドライン導入のための文言のみが記された。
- ・本改定案は WP1A 及び SG1 に送付され、イランから修正提案が出され、議論の末、冒頭の修正提案 1 箇所(本 Report は「提案周波数範囲を記述」を「周波数範囲を参照」に修正)を受け入れてレポート改定が承認された。

### (2) 審議概要

- ・日本とイスラエルがエディタを務め、日本とイスラエルからの入力をベースに韓国、中国等の寄与を入れた案を元に、主に第 8 回会合以降に議論が行われた。
- ・日本からの提案（1 月答申および 5 月の電波利用環境委員会・ワイヤレス電力作業班までの合意事項）はそのまま改定案に受け入れられた。
- ・韓国入力には人体防護の検討状況が、中国の情報には最新の regulation 検討状況とともに Home appliance 向け 47-53kHz と EV 向け 37-43kHz 及び 82-87kHz の周波数範囲が記述されている。
- ・イスラエルから ICNIRP の 1998 と 2010 ガイドラインを解説する内容が新たに 8 章として提案された。しかし、日本から誤解を与える可能性が指摘された。オフライン議論の結果、章には人体防護の原則と ICNIRP ガイドライン導入のための文言のみが記された。
- ・ETSI TC ERM レポート内容の入力も検討されたが、出版前のレポートのため見送られた。
- ・CISPR B 議長からの締め切り後の入力が正式文書になった。この内容の Report 改定への反映も

検討されたが、記載内容が事実と異なる部分があるとの指摘がフロアからあり、見送られた。

- ・この改定案は WP1A plenary で承認後、SG1 に送られた。
- ・SG1 では、イランから Introduction 最後の” This Report includes information about national regulations but this information has no international regulatory effect.” を冒頭に移動する提案をしたが、SG1 議長と日本から WP で議論済み、また SG1 議長が今回改定の内容ではないと却下。イランはさらに Introduction 冒頭の” This Report contains proposed frequency ranges …” を” This Report refers frequency ranges … ” に修正する提案を出し、日本が”proposed”削除を受け入れ、レポート改定が承認された。

## 2.3 暫定新レポート案ITU-R SM.[WPT.BEAM]作業文書の改定

---

入力文書：214 (URSI(ICWG on SPS)), 221 (J), 226 (CG Chair), 227 (ETSI(TC ERM))

出力文書：1A/TEMP/105

### (1) 主要結果

- ・日本からの作業文書改定入力でこれまでの文書内容全体を入れ替えることが合意された。
- ・ステータスは作業文書のままで、次回会合に繰り越されることになった。

### (2) 審議概要

- ・日本からのみ作業文書改定案の入力があり、議長から内容が紹介された。
- ・オランダ、イスラエルから、作業文書に使われている「伝送」という表現”Wireless Power Transmission (or Transfer)” については、Transfer よりも ITU でなじみ深い Transmission の方が良いとのコメントがあった。
- ・日本からの作業文書改定入力でこれまでの文書全体を入れ替えることが合意された。ステータスは作業文書のままで、次回会合に繰り越されることが WP1A Plenary で合意された。

## 2.4 コレスポンデンスグループへの委任事項およびラポータグループへの格上げ

---

入力文書：226 (CG Chair)

出力文書：1A/TEMP/108

### (1) 主要結果

- ・WP1A-2にて、1年の延長と Orange 氏の議長継続が合意。
- ・また①勧告 PDNR 文書、②改定 SM.2303 文書、③ SM.[WPT.BEAM]作業文書の策定を進めることが確認され、ToR 改定案が承認された。
- ・WP1A plenary にて CG-WPT の Rapporteur Group (RG)への格上げが承認された。RG では Physical Meeting が認められ、来年の WP1A 会合の前日 (6/1)に F2F 会合が行われることになった。

### (2) 審議概要

- ・WP1A-2にて、CG-WPT の1年の延長と Orange 氏の議長継続が合意された。
- ・ToR には、イスラエル提案により勧告を第一優先で次にレポートを記載することにした。日本からの提案でビーム WPT 報告書作業文書が追加された。その結果、①勧告 PDNR 文書、②改定 SM.2303 文書、および③ SM.[WPT.BEAM]作業文書の策定を進めることが確認された。
- ・ToR の「無線通信、電波天文、標準電波時刻サービスへの“影響”」という文言の”impact of WPT”という表現についてドイツから疑問が呈されたが、ETSI からこの言葉があらゆる場合をカバーできるという見解が示され、この言葉を使うことで合意した。
- ・勧告案の修正を反映した修正がいくつか行われた。さらに、イスラエルから、ITU-R の全ての

メンバーの積極的な参加を求める旨を書くよう提案があり、その旨末尾に追記された。

- ・ WP1A Plenary にてイスラエルから CG-WPT の RG への格上げが提案され、合意された。RG の議長は、引き続き Orange 氏が務めることも承認された。これに伴い、ToR が RG-WPT としての内容に修正され、次回 WP1A の前日に F2F の会合を行うこととなり、文書入力締め切りを次回会合の 6 週間前(4/15)との修正も含めて、承認された。

## 2.5 リエゾン文書

---

入力文書：226 (CG Chair)

出力文書：1A/TEMP/109, 1A/TEMP/110

### (1) 主要結果

- ・ 勧告案 PDNR、SM.2303 改定案、ビーム WPT 報告書作業文書、RG-ToR (=CG-WPT ToR 改定文書)の 4 つを添付し、被干渉サービスを扱う ITU 内の他 WP 宛て、また CISPR, TC9(鉄道)を含む関連する外部機関宛てにそれぞれの文面のリエゾン文書を送付することが合意された。
- ・ ITU の被干渉サービスを扱う WP 向けリエゾン文書の本文には、勧告案中に言及のある 19-21/59-61 kHz, 79-90 kHz, および 100/110-300 kHz の周波数が書き込まれた。
- ・ CISPR の会合において、WP1A での議論を紹介するようにコンビナーの久保田氏（日本）に対して要請があり、久保田氏は受諾した。

### (2) 審議概要

- ・ ITU 内他 WP 宛のリエゾンの送付先について議論され、WPT の影響が予想されるサービスを扱うグループとして WP5B, 5C, 6A, 7C, 7D, および CISPR が挙げられた。plenary にて、送付先に WP1B も追加された。
- ・ 外部機関宛のリエゾン文書送付先についてはビーム WPT 関係機関が追加され、APT, A4WP, ARIB, ATIS, BWF, CCSA, CEA, ETSI, IEC, IEC-CISPR, IEEE, ISACC, NFC Forum, PMA, SAE, TIA, TTA, TTC, URSI (ICWG on SPS), WPC, WIPE, and WIPOT となり、コピーが ISO/IEC TC 69/JPT 61980, ISO TC 22, IEC TC 9 (鉄道)へ送られることとなった。
- ・ ITU 内他 WP 宛のリエゾンについて、英国から、添付の勧告案の周波数帯 19-21/59-61kHz、79-90kHz、100/110-300kHz を勧告案ではなくリエゾンに書き込むことが提案され、3 つ全ての周波数を本文に直接書き込まれ、6.78MHz 帯を除く 3 つの周波数帯について貢献を求めることになった。
- ・ 添付文書は、勧告案 PDNR、SM2303 改定案、ビーム WPT 報告書作業文書、RG-ToR (=CG-WPT ToR 改定文書)の 4 つで、これらに関する情報の提供と WP1A での議論への参加を求める趣旨とされた。
- ・ イスラエルからの提案で、日本の共用検討の方法と結果を記した文書の存在にも言及されることになった。
- ・ CISPR コンビナーである日本（久保田氏）から、CISPR での WPT 検討状況が紹介され、CISPR では周波数帯の特定ができないため、個別の文面のリエゾン文書を送付することが提案され、文案が提示されたが、英国や米国が反対し、特別な文面は送られないことになった。
- ・ 久保田氏に対しては、CISPR がこのリエゾンや Report 等をレビューするときに、CISPR で WP1A での結果を述べ、説明することが依頼され、久保田氏は了承した。SG1 会合では、WPT に関する審議について、久保田氏が ITU-R を代表して CISPR 会合に参加することが合意され、久保田氏に対して SG1 議長から謝意が述べられた。

## 2.6 各国および主要団体のサポート状況

---

- 米国：PDNR 策定を支持。モバイル機器用周波数の特定を先行する意図がみえる。EV 用周波数として 79-90kHz を提案しているが検討が必要との立場。
- イスラエル：PDNR 策定を支持。79-90kHz、100-300kHz も提案。WPT の影響を慎重に検討した上での勧告化を推す。Human Hazards 関連記述追加を提案。日本と密接に協議。
- 韓国：PDNR 策定を支持。6765-6795kHz の勧告化を急ぐ。OLEV 向け 19-21/59-61kHz はサポートが得にくいと判断した上で、それを提案している。
- 日本：PDNR 策定を支持。WPT 用周波数の他システムへの影響を仔細に調査し完了し、その結果を紹介し提案した唯一の国。
- 英国：PDNR 策定に反対。特に、19-21/59-61kHz、79-90kHz、100/110-300kHz の 3 周波数範囲には既存システムへの強い懸念を示す。BBC と共同戦線を張る。EBU、オランダとも連携して反対を示す。
- オランダ：PDNR 策定に反対。英国と同調。
- BBC：PDNR 策定に反対。英国と同調。
- EBU：PDNR 策定に反対。英国と同調。
- ETSI：PDNR 策定に反対せず。日本からの共存検討入力などを求めるなど、慎重な検討が必要との立場。ETSI TC ERM レポートなどの入力を今後考えている。
- ドイツ：PDNR 策定に反対せず。既存システムとの共存には、電波時計サービスなどとの共存課題を提起するなど、慎重な検討が必要との立場。
- ロシア：PDNR 策定に反対せず。ITU は適した周波数の範囲を示して、各国はそれぞれの事情を考慮し適切に出力などを判断ということで良いのではないかと、との立場。
- 中国：PDNR 策定に反対せず。今会合で法制度整備状況を紹介し SM.2303-0 の改訂版に記載された。

### 3 Working Group 1A-3 : CAT ハンドブックとその他の課題（議長: Ms. B. Sykes (米国)）

#### 3.1 275 GHz以上の周波数帯における能動業務の技術動向（DG議長：植田 由美 (日本)）

入力文書：1A/179 (WP 7D) , 197 (IEEE), 211 (CHN), 217 (WP 7C), 222 (J), 223 (J)

出力文書：1A/TEMP/ 89, 90, 91, 92, 94

##### (1) 主要結果

- 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ-TREND]の改定案についての日本、中国、IEEE の入力文書 (1A/197, 211, 222)を統合した後、そこから第 6 章(受動業務との共用検討を行うための情報)を削除する代わりに、WP 5A, 5C, 7C, 7D に能動業務と受動業務間の共用検討を共同で行うことを推奨するリエゾン文書を送付することで、本文書を新レポート案(1A/TEMP/94)に格上げすることに合意した。(引き続き行われた SG 1 会合にて本レポート案はタイトルを「275-3000 GHz の周波数帯における能動業務の技術動向」に修正した上で、レポート ITU-R SM.2352-0 として承認された。)
- さらに日本入力の本レポート案に関する関連 Working Parties(WP 3K, 3M, 4A, 5A, 5C, 7C, 7D)と IEEE へのリエゾン文書案(1A/223)については以下の変更を加え、各団体にリエゾン文書(1A/TEMP/89, 90, 91, 92)を送付した。
  - WP 3K, 3M へのリエゾン文書(1A/TEMP90)については、275 GHz 以上の周波数帯の伝搬特性について ITU-R 文書ではなく、検討状況の問い合わせに変更
  - WP 4A へのリエゾン文書(1A/TEMP/91)については、変更なし (本周波数帯を固定衛星業務に既に使用しているか、またはその予定があるかについて問い合わせ)
  - WP 5A, 5C, 7C, 7D へのリエゾン文書(1A/TEMP/89)については、能動業務と受動業務間

の共用検討をこれらの Working Parties が共同で行うことの推奨を追加。WP 5A と 5C に依頼した、本レポート案に記載の陸上移動業務または固定業務のユースケース以外のユースケースやアプリケーションの可能性、それらの技術的・運用的特性についての問い合わせについては変更なし

- IEEE のヘリエゾン文書(1A/TEMP/92)については、今後能動業務と受動業務間で共用検討を行うために、彼らが能動業務に使用するためのターゲットとして捉えている 275-325 GHz 帯や他の周波数帯で運用するシステムの周波数要求条件、技術的・運用的特性について、WP 1A ではなく、WP 5A, 5C に送付を依頼する文章に変更。上記周波数帯に加え、252-275 GHz の連続した周波数帯もこれらの業務で使用可能なことの情報周知については変更なし

## (2) 審議概要

### 1) 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ\_TREND]への改定案

入力文書：1A/197, 211, 222

出力文書：1A/TEMP/92, 94

IEEE からの入力文書(1A/197)について議論はなく、中国からの入力文書(1A/211)についても用語の修正の他、特に議論はなかった。従って、新レポート草案の改定案(1A/TEMP/94)にこれらの入力文書の提案が、上記箇所を修正の上、追加された。

日本からの入力文書(1A/222)については、第 6 章のタイトル（受動業務との共用検討を行うための情報）の変更提案または第 6 章の削除提案に関しては、削除することで合意し、代わりに WP 5A, 5C, 7C, 7D に能動業務と受動業務間の共用検討をこれらの WP 共同で行うことを推奨するリエゾン文書を送付することで合意した。

### 2) 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ-TREND]に関する WP1A への返答リエゾン文書

入力文書：1A/179, 217

出力文書：1A/TEMP/89

上記 WP 7D と 7C の入力文書について議論はなく、WP 5A, 5C, 7C, 7D へのリエゾン文書(1A/TEMP/89)については、新レポート草案の改定案(1A/TEMP/94)について能動業務と受動業務間の共用検討を行うことを推奨することとなった。

### 3) 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ.TREND]についてのリエゾン文書

入力文書：1A/223

出力文書：1A/TEMP/89, 90, 91, 92

新レポート草案の関連 Working Parties (WP 3K と 3M, WP 4A, WP 5A と 5C, WP 7C と 7D) と IEEE へのリエゾン文書の送付を提案する日本からの入力文書(1A/223)に関して、WP 5A と 5C, WP 7C と 7D へのリエゾン文書を統合し(1A/TEMP/89)、彼らに能動業務と受動業務間の共用検討を共同で行うことを推奨する記載をリエゾン文書に追加することで合意した。WP 3K と 3M へのリエゾン文書(1A/TEMP/90)については、275 GHz 以上の周波数帯についての ITU-R 文書ではなく検討状況の問い合わせに変更することで合意した。WP 4A へのリエゾン文書(1A/TEMP/91)については変更なく合意した。IEEE へのリエゾン文書(1A/TEMP/92)については、275-325 GHz 帯や他の周波数帯で運用するシステムの周波数要求条件、技術的・運用的特性については WP 1A ではなく、WP 5A, 5C に送付を依頼することで合意した。

## 3.2 Rec. ITU-R SM.1132

---

入力文書：1A/224 (Telecom Italia S.p.A.) , 225 (F)

出力文書：1A/TEMP/93

#### (1) 主要結果

上記2つの入力文書に米国からのコメントを統合したものから、文言の削除あるいはノートを追加し、さらに本勧告のタイトルの修正案について「General principles and methods for sharing spectrum by multiple between radiocommunication services」から” spectrum by multiple,を削除することで所掌範囲が不明確になるのではないかという懸念については、次回会合で議論することとし、改定勧告草案として議長報告に添付することが合意された。

### 3.3 無線通信業務の保護

---

入力文書：1A/180 (CISPR), 183 (WPs 5A&5C), 185 (WP 5C)  
出力文書：なし

#### (1) 主要結果

各入力文書について検討したが、特段対応を取らないこととなった。

### 3.4 不要放射

---

入力文書：1A/167 (WP 4C), 172 (WP 4A), 182 (WP 5C), 184 (WP 5A), 186 (WP 5B), 195 (WP 5D), 196 (WP 6A), 208 (D), 228 (Alcatel-Lucent, AT&T, Intel Corporation, Nokia Corporation and Nokia Siemens Networks)  
出力文書：1A/TEMP/88

#### (1) 主要結果

ドイツと Intel が本件について入力のあった WP (WP 4A, 5A, 5B, 5C, 5D, 6A) に対する、返答リエゾン文書(1A/TEMP/88)を作成し、新レポート草案 ITU-R SM.[CHAR-UNWANTED]の作業文書については前回会合から変更なしで議長報告に再掲されることとなった。

### 3.5 Rec. ITU-R SM.1541

---

入力文書：1A/212 (CHN)  
出力文書：1A/TEMP/95

#### (1) 主要結果

上記入力文書を盛り込んだ改定勧告草案が、議論なしで議長報告に添付された。

### 3.6 WP1A勧告のエディトリアルな修正

---

入力文書：1A/202 (USA)  
出力文書：1A/TEMP/96, 97

#### (1) 主要結果

上記入力文書に記載されていたエディトリアル修正から、勧告 ITU-R SM.331-4 の一部に若干の用語の修正を行うことで、ITU-R SM.326-7 と ITU-R SM.331-4 にエディトリアル修正を施すことを合意した。

表-2 入力文書一覧

| 文書番号   | 提出元       | 表題  |   |
|--------|-----------|---|---|
| 1A/166 | WP1A 議長   | REPORT OF THE MEETING OF WORKING PARTY 1A (Geneva, 3-11 June 2014)  | WP1A 会合の報告<br>(2014年6月3日～11日、ジュネーブ)   |
| 167    | WP 4C     | Liaison statement to Working Party 1A<br>Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems  | WP1A へのリエゾン文書<br>広帯域通信システムで用いられるデジタル変調技術における帯域外及びスプリアス領域の不要発射特性   |
| 1A/168 | WP4C      | Liaison statement to ITU-T Study Group 5 (copy to ITU-R Working Party 1A) - ITU-R interest in K series Recommendations  | ITU-T SG5 (情報として写しを ITU-R WP1A へ) へのリエゾン文書—K シリーズ勧告への ITU-R の関心   |
| 1A/169 | WP3L      | LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 15 AND ITU-R WORKING PARTY 1A<br>-Considerations on the G.9700 power spectral density (PSD) limit mask   | ITU-T SG15 及び ITU-R WP1A へのリエゾン文書 —勧告 G.9700 電力スペクトル密度 (PSD) 制限マスクに関する検討                                      |
| 1A/170 | T-WP 2/5  | LIAISON STATEMENT/R ON RECOMMENDATION ITU-T K.60<br>-Coexistence of wired and wireless communication systems  | 勧告 ITU-T K.60 に関する回答リエゾン<br>—有線及び無線通信システム間の共存   |
| 1A/171 | T-WP 2/5  | LIAISON STATEMENT/R ON CURRENT STATUS ON DRAFT RECOMMENDATION ITU-T K.MHN AND ISSUES RELATED TO COEXISTENCE OF WIRED TELECOMMUNICATIONS AND RADIO COMMUNICATION (REPLY TO SG 9-LS56)  | 勧告案 ITU-T K.MHN の現状及び有線通信と無線通信との共存に関連する事項に関する回答リエゾン (SG 9-LS56 への回答)  |
| 172    | WP 4A     | Liaison statement to Working Party 1A - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems   | WP1A への連絡文書—<br>ブロードバンド通信システムに用いられるデジタル変調技術のための帯域外及びスプリアス領域における不要発射の特性  |
| 1A/174 | WP 3L     | Liaison statement to Working Party 1A (copy for information to ITU-T Study Group 5) - Leakage of radio frequency energy from J.HiNoC system   | WP1A へのリエゾン文書 (情報として写しを ITU-T SG5 へ) —J.HiNoC システムからの高周波エネルギーの漏えい   |
| 1A/175 | T-SG 9    | LIAISON STATEMENT ON LEAKAGE OF RADIO FREQUENCY ENERGY FROM J.HINOC SYSTEMS AND COEXISTENCE OF WIRED TELECOMMUNICATIONS WITH RADIOCOMMUNICATION SYSTEMS - CONSIDERATIONS WITH RESPECT TO WORK ON RECOMMENDATION ITU T J.195.1 (J.HINOC-REQ) | J.HINOC システムからの高周波エネルギーの漏えい及び有線通信システムと無線通信システムの共用に関するリエゾン文書—ITU-T 勧告 J.195.1(J.HINOC-REQ)の作業で用いられる検討          |
| 1A/176 | T-SG 9    | LIAISON STATEMENT ON RECOMMENDATION ITU-T K.60 - COEXISTENCE OF WIRED AND WIRELESS COMMUNICATION SYSTEMS  | ITU-T 勧告 K.60 に関するリエゾン文書—有線通信システムと無線通信システムの共用   |
| 1A/177 | T-SG 9    | LIAISON STATEMENT ON CURRENT STATUS ON DRAFT RECOMMENDATION ITU-T K.MHN AND ISSUES RELATED TO COEXISTENCE OF WIRED TELECOMMUNICATIONS AND RADIO COMMUNICATION   | ITU-T 勧告 K.MHN の草案と有線通信と無線通信の共用に関する論点の現状についてのリエゾン文書   |
| 1A/178 | WP 7D     | REPLY LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 1A (COPY FOR INFORMATION TO WORKING PARTIES 4C, 5A, 5B, 5C, 6A AND ITU-T STUDY GROUP 15)<br>-Considerations on the G.9700 power spectral density (PSD) limit mask                                  | WP1A への返答リエゾン文書<br>(WPS 4C, 5A, 5B, 5C, 及び 6A 並びに ITU-T SG15 に対しては情報として写し)<br>—G.9700 のパワースペクトル密度制限マスクについての検討 |
| 179    | WP 7D     | Liaison statement to Working Party 1A - Preliminary draft new Report ITU-R SM.[THZ_TREND] - Technology trends of active services in the bands above 275 GHz   | 暫定新レポート案 ITU-R SM.[THZ_TREND]<br>「275GHz 以上の帯域の能動業務の技術動向」に関する WP1A へのリエゾン文書                                   |
| 180    | CISPR     | Liaison to ITU-R on the CISPR database for the protection of radio services   | 無線業務の保護のための CISPR データベースに関する ITU-R へのリエゾン文書   |
| 182    | WP 5C     | Reply liaison statement to Working Party 1A - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems                                   | WP1A—<br>広帯域通信システムに用いられるデジタル変調技術のための帯域外及びスプリアス領域における不要発射の特性   |
| 183    | WPs 5A&5C | Liaison statement to Working Party 1B on development of a draft new Report ITU-R SM.[DYNAMIC ACCESS]  | 新レポート案 ITU-R SM.[DYNAMIC ACCESS] の作成についての WP1B へのリエゾン文書   |

| 文書番号   | 提出元   | 表題  |  |
|--------|---|---|--|
| 184    | WP 5A   | Liaison statement to Working Party 1A (copy for information to Working Parties 1B, 1C, 4A, 4C, 5B, 5C, 5D, 6A, 7B, 7C and 7D) - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communications systems  | WP1A への連絡文書 (WP1B、1C、4A、4C、5B、5C、5D、6A、7B、7C 及び 7D に対しては情報の写し) -<br>広帯域通信システムに用いられるデジタル変調技術のための帯域外及びスプリアス領域における不要発射の特性                           |
| 185    | WP 5C   | Liaison statement to Working Parties 1A, 1B, 3M, 4A, 4C, 5A, 5B, 5D, 6A, 7B, 7C and 7D - Preliminary draft revision of Recommendation ITU-R F.758-5 - Systems parameters and considerations in the development of criteria for sharing or compatibility between digital fixed wireless systems in the fixed service and systems in other services and other sources of interference | WP1A、1B、3M、4A、4C、5A、5B、5D、6A、7B、7C 及び 7D への連絡文書 - ITU-R F.758-5 勧告の改定素案 -<br>固定通信サービスにおけるデジタル固定ワイヤレスサービスと他の干渉源におけるその他のサービス間の共用及び両立性のための基準についての検討 |
| 186    | WP 5B   | Liaison statement to the Working Party 1A - Liaison statement for the characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems   | WP1A への連絡文書 -<br>広帯域通信システムに用いられるデジタル変調技術のための帯域外及びスプリアス領域における不要発射の特性  |
| 1A/187 | WP 5B   | LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUPS 5, 9 & 15 AND ITU-R WORKING PARTIES 1A & 3M (COPY TO FOR INFORMATION ITU-R WORKING PARTIES 5A, 5C, 6A & 7D) - CO-EXISTENCE BETWEEN RADIOCOMMUNICATION SYSTEMS AND NEW WIRED TELECOMMUNICATION STANDARDS   | ITU-T SG5,9 及び 15 並びに ITU-R WP1A 及び 3M へのリエゾン文書 (ITU-R WP5A,5C,6A 及び 7D に対しては情報として写し) -<br>無線通信システムと新たな有線通信規格との共用                                |
| 1A/188 | T-SG 15   | LIAISON STATEMENT ON COOPERATION ON THE NARROW-BAND PLT COMPONENT OF THE SMART GRID PROJECT   | スマートグリッドプロジェクト構成要素の狭帯域 PLT に係る協力についてのリエゾン文書  |
| 1A/190 | BR 局長   | LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANIZATIONS -<br>-Working document towards a preliminary draft new ITU-R Report on the Smart Grid Project   | 外部機関へのリエゾン文書 -<br>スマートグリッドプロジェクトの暫定新レポート案に向けた作業文書  |
| 1A/191 | ATIS (Alliance for Telecommunications Industry Solutions) | LIAISON RESPONSE ON WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R SM.[SMART_GRID]   | 暫定新レポート案 ITU-R SM.[SMART_GRID] の作業文書へのリエゾン文書   |
| 1A/193 | T-SG 5  | LIAISON STATEMENT ON RECOMMENDATIONS ITU-T K.60 - COEXISTENCE OF WIRED AND WIRELESS COMMUNICATION SYSTEMS   | ITU-T K.60 勧告 - 有線及び無線通信システムの共用に関するリエゾン文書  |
| 1A/194 | T-SG 5  | LIAISON STATEMENT ON CURRENT STATUS OF DRAFT RECOMMENDATION ITU-T K.MHN AND ISSUES RELATED TO COEXISTENCE OF WIRED TELECOMMUNICATIONS AND RADIO COMMUNICATION   | ITU-T K.MHN 勧告の草案及び有線通信と無線通信の共用に関係する論点の現状に関するリエゾン文書  |
| 195    | WP 5D   | Liaison statement to WP 1A (copy for information to WPs 1B, 1C, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 6A, 7B, 7C and 7D) - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems  | WP1A への連絡文書 (WP1B、1C、4A、4C、5A、5B、5C、6A、6B、7B、7C 及び 7D に対しては情報として写し) -<br>広帯域通信システムに用いられるデジタル変調技術のための帯域外及びスプリアス領域における不要発射の特性                      |
| 196    | WP 6A   | Liaison statement to Working Party 1A - Working document toward a preliminary draft new Report ITU-R SM.[CHAR-UNWANTED] - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems   | WP1A への連絡文書 - 新たな ITU-R 勧告の素案 [CHAR-UNWANTED] 作成に向けた作業文書 -<br>広帯域通信システムに用いられるデジタル変調技術のための帯域外及びスプリアス領域における不要発射の特性                                 |
| 197    | IEEE  | PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R SM.[THZ.TREND] Technology trends of active services in the band above 275 GHz  | 暫定新レポート案 ITU-R SM.[THZ_TREND] 275GHz 以上の帯域の能動業務の技術動向   |
| 1A/199 | T-SG15  | LIAISON STATEMENT ON UPDATES TO ITU-T G.993.2 ANNEX B (BAND PLANS AND PSD MASKS FOR REGION EUROPE)  | ITU-T G.993.2 ANNEX B の改定に対するリエゾン文書 (欧州地域向けの周波数計画及び PSD マスク)   |
| 1A/200 | SG6   | LIAISON STATEMENT TO STUDY GROUP 1 COPY TO STUDY GROUPS 5 AND 7, ITU-D STUDY GROUP 2 AND ITU-T STUDY GROUP 15 (QUESTION ITU-R 221/1)  | SG1 へのリエゾン文書<br>SGs 5 及び 7、ITU-D SG2 並びに ITU-T SG15 に写し送付 (研究課題 ITU-R 221/1)   |

| 文書番号   | 提出元   | 表題  |   |
|--------|---|---|---|
| 202    | USA   | Proposed editorial modifications of Recommendation ITU-R SM.326-7 and Recommendation ITU-R SM.331-4   | 勧告 ITU-R SM.326-7 及び勧告 ITU-R SM.331-4 に対する修文提案  |
| 208    | D   | On the characterization of unwanted emissions of broadband digital systems  | 広帯域デジタルシステムの不要発射特性について  |
| 211    | CHN   | Proposed modification to preliminary draft new Report ITU-R SM.[THZ.TREND]  | 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ.TREND]への改定提案  |
| 212    | CHN   | Proposal of draft revision of Recommendation ITU-R SM.1541-5 Unwanted emission in the out-of-band domain  | 勧告 ITU-R SM.1541-5 改訂提案<br>帯域外領域における不要発射  |
| 217    | WP 7C   | Reply liaison statement to Working Party 1A - Preliminary draft new Report ITU-R SM.[THZ_TREND] - Technology trends of active services in the bands above 275 GHz                           | Working Party 1A への返答リエゾン文書 - 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ_TREND] - 275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向 |
| 222    | J   | Proposed revision of a preliminary draft new Report ITU-R SM.[THZ.TREND]<br>Technology trends of active services in the band above 275 GHz  | 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ.TREND]の改定案<br>275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向                          |
| 223    | J   | Proposed liaison statements to the relevant Working Parties and IEEE on preliminary draft new Report ITU-R SM.[THZ_TREND]<br>Technology trends of active services in the band above 275 GHz | 新レポート草案 ITU-R SM.[THZ.TREND]の関連 WP と IEEE へのリエゾン文書の提案<br>275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向     |
| 224    | Telecom Italia S.p.A.   | Preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SM.1132-2 General principles and methods for sharing between radiocommunication services   | ITU-R 勧告 SM.1132（業務間の周波数共用に関する一般則及び手法）に係る改訂素案について   |
| 225    | F   | Preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SM.1132-2 General principles and methods for sharing between radiocommunication services   | ITU-R 勧告 SM.1132（業務間の周波数共用に関する一般則及び手法）に係る改訂素案について   |
| 1A/226 | ITU-T SG15  | LIAISON STATEMENT ON THE EXTENSION OF COAX BASEBAND PROFILES OF ITU-T G.HN TO 200 MHz   | ITU-T G.HN の同軸ベースバンドプロファイルの 200MHz までの延長についてのリエゾン文書                                       |
| 228    | Alcatel-Lucent, AT&T, Intel Corporation, Nokia Corporation and Nokia Siemens Networks | Characterization of unwanted emissions  | 不要発射特性について  |

表-3 出力文書一覧

| 文書番号<br>1A/<br>TEMP/ | 表題  |   | 備考<br>(提出元) |
|----------------------|---|---|-------------|
| 88                   | Draft reply to liaison statements from Working Parties 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D AND 6A - Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SM.[CHAR-UNWANTED] - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems | Working Parties 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 6A からのリエゾン文書への返信案 - 新レポート草案 ITU-R SM.[CHAR-UNWANTED]の作業文書 - ブロードバンド通信システムに使用されるデジタル変調技術のための帯域外とスプリアス領域への不要発射の特性 | WP1A-3      |
| 89                   | Proposed liaison statement to Working Parties 5A, 5C, 7C and 7D - Technology trends of active services in the band above 275 GHz  | Working Parties 5A, 5C, 7C, 7D へのリエゾン文書案 - 275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向   | WP1A-3      |
| 90                   | Proposed liaison statement to Working Parties 3K and 3M - Technology trends of active services in the band above 275 GHz  | Working Parties 3K, 3M へのリエゾン文書案 - 275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向   | WP1A-3      |
| 91                   | Proposed liaison statement to Working Party 4A - Technology trends of active services in the band above 275 GHz   | Working Parties 4A へのリエゾン文書案 - 275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向   | WP1A-3      |
| 92                   | Proposed liaison statement to the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) on the draft new Report ITU-R SM.[THZ_TREND] - Technology trends of active services in the band above 275 GHz  | IEEE へのリエゾン文書案 - 275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向   | WP1A-3      |
| 93                   | Preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SM.1132-2 - General principles and methods for sharing between radiocommunication services   | 改定勧告草案 ITU-R SM.1132-2 - 無線通信業務間における共用の原則と方法  | WP1A-3      |
| 94                   | [Preliminary] draft new Report ITU-R SM.[THZ.TREND] - Technology trends of active services in the band above 275 GHz  | 新レポート[草]案 ITU-R SM.[THZ.TREND] - 275 GHz 以上の周波数帯における能動業務の技術動向   | WP1A-3      |
| 95                   | [Preliminary] draft modification of Recommendation ITU-R SM.1541-5 - Unwanted emissions in the out-of-band domain   | 改定勧告[草]案 TU-R SM.1541-5 - 帯域外領域における不要発射   | WP1A-3      |
| 96                   | Draft editorial modifications of Recommendation ITU-R SM.331-4 - Noise and sensitivity of receivers   | 勧告 ITU-R SM.331-4 のエディトリアル修正案 - 受信機のノイズと感度  | WP1A-3      |
| 97                   | Proposed draft editorial modifications of Recommendation ITU-R SM.326-7 - Determination and measurement of the power of amplitude-modulated radio transmitters  | 勧告 ITU-R SM.326-7 のエディトリアル修正案 - 振幅変調無線送信機の電力決定と電力測定   | WP1A-3      |
| 100                  | LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANIZATIONS -Report ITU-R SM.[SMART_GRID] on the Smart Grid project”  | 外部機関へのリエゾン文書 - Smart Grid 計画についての ITU-R SM.[ SMART_GRID ]報告   | WG1A        |
| 101                  | LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 5 - ITU-R interest in K-series Recommendations   | ITU-T SG5 へのリエゾン文書 - K シリーズの勧告への ITU-R の関心  | WG1A        |
| 102                  | LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 15 - Developments concerning co-existence issues   | ITU-T SG15 へのリエゾン文書 - 共存事項に関する開発  | WG1A        |
| 103                  | LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 3L - Evaluating the leakage and impact of radio frequency noise from telecommunication systems using metallic conductors   | WP3L へのリエゾン文書 - 金属伝導体を用いた電気通信システムからの電波周波数ノイズの漏洩と影響の評価   | WG1A        |
| 104                  | DRAFT ITU-R STUDY GROUP 1 LIAISON STATEMENT FOR INFORMATION TO ITU-R STUDY GROUP 6 AND ITU-T STUDY GROUP 15 - Liaison activities with CENELEC”  | ITU-R SG1 から ITU-R SG6 と ITU-T SG15 へのリエゾン文書 - CENELEC とのリエゾン活動”  | WG1A        |
| 105                  | Working Document Towards a PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R SM.[WPT.BEAM]- Introduction to wireless power transmission via radio frequency beam   | 新レポート草案 ITU-R SM.[WPT.BEAM]の作業文書-無線周波数ビームを介したワイヤレス電力伝送の紹介   | WG1A        |
| 106                  | DRAFT REVISION OF REPORT ITU-R SM.2303-0- Wireless power transmission using technologies other than radio frequency beam  | レポート改訂草案 SM.2303-0-無線周波数ビーム以外の技術を用いたワイヤレス電力伝送   | WG1A        |
| 107                  | PRELIMINARY DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU-R SM.[WPT]- Frequency ranges for global or regional operation and Human Hazards of non-beam Wireless Power Transmission (WPT) systems  | 新勧告草案 SM.[WPT]- non ビームワイヤレス電力伝送システムのグローバルまたは地域的なオペレーションのための周波数範囲と Human Hazard   | WG1A        |
| 108                  | Terms of reference (tor) for a correspondence group (CG-WPT) on developing content for deliverables related to Question ITU-R 210-3/1 Wireless Power TransMISSION   | 研究課題 ITU-R 210-3/1 に関連した青果物の中身を発展させるための CG-WPTni に対する付託条項   | WG1A        |

| 文書<br>番号<br>1A/<br>TEMP/ | 表題   | 備考<br>(提出元)  |
|--------------------------|--|--|
| 109                      | LIAISON STATEMENT TO Working Parties 5B, 5C, 6A, 7C and 7D- Radio Frequency Ranges for Wireless Power transmission using technologies other than Radio Frequency Beam  | WP5B,5C,6A,7C,7D へのリエゾン文書-無線周波数ビーム以外の技術を用いたワイヤレス電力伝送のための無線周波数帯   |
| 110                      | LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANIZATIONS And Standards development organizations (COPY TO ISO/IEC TC 69/JPT 61980, ISO TC 22 AND IEC TC 9)- Study on Question ITU-R 210-3/1 "Wireless power transmission" | 外部機関と基準策定機関(COPY TO ISO/IEC TC 69/JPT 61980, ISO TC 22 AND IEC TC 9)へのリエゾン文書-研究課題 ITU-R 210-3/1 に対する研究 |